

第7回 鶴川東地区新たな学校づくり基本計画検討会 議事要旨

開催日時	2022年8月24日(水) 9:29~11:12	
開催場所	町田市立鶴川第三小学校 体育館棟1階 視聴覚室(ウェブ会議併用)	
出席者 (敬称略)	委員	田中委員、成海委員、大川原委員、吉川委員、大塚委員、廣田委員(代理出席:清水氏)、陶山委員、○鈴木委員、内野委員、◎鯨坂委員、井上委員(◎会長 ○副会長)
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、防災課(委託業者)株式会社梓設計
傍聴者	0名	

議事内容

1 第6回基本計画検討会の振り返りについて

新たな学校推進課 (資料1説明)

学校の統合と学区の再編に伴う学区外通学については、通学区域の再編、学校統合に対して行います通学先の配慮について説明をした。本日の検討会でも、引き続き学区外通学に係る検討内容について説明する。

学校跡地等の活用については、跡地活用の担当部署である企画政策課より、町田市における市有財産の活用方針や、学校跡地活用の基本的な考え方を説明した。その後、新たな学校づくり推進課より、この鶴川東地区において学校跡地となる現在の鶴川第三小学校の校地については、町田市新たな学校づくり推進計画において、鶴川第二中学校と真光寺中学校との統合を踏まえ、鶴川第二中学校の校地として活用することとなっている旨を説明した。

学校施設の地域開放及び屋外環境づくりと需要調査アンケートの実施については、新しい学校施設における地域開放エリア及び屋外の環境づくりについて、ワークショップで皆様からご意見をいただいた。ワークショップでは、地域開放に当たっては、やはりセキュリティーの確保が重要であることや、学校の周辺環境に十分配慮した施設配置が必要であること、また、防災の観点や車両と児童の動線の交錯に対する配慮についてなど、多くの意見をいただいた。

最後に、鶴川東地区の新たな学校名の選定については、まず今後の学校名の検討スケジュールを共有し、今年の5月から6月に実施した意見募集の結果を踏まえ、本検討会として今後どのように新たな学校名の候補を3案程度に絞り込んでいくか、その方法や視点についてワークショップで意見交換をした。本日は、前回のワークショップで出されたご意見を確認しながら、各委員がよいと思う学校名の候補及びその学校名を選んだ理由を皆様から伺いながら、検討会として選定する案の絞り込みを進めていきたい。

2 学校の統合と学区の再編に伴う学区外通学について

学務課 (参考資料、資料2-1、2-2説明)

3 学校統合に伴う避難施設機能について

防災課 (資料3説明)

4 新たな学校の避難施設機能について

委託業者 (資料4-1～4-2説明)

新たな学校の施設整備に関しては、テーマごとにこれまで4回にわたって検討してきたが、今回が最後となる。今後は、第10回検討会で「施設整備コンセプト」のまとめを提示し、第12回検討会において、建設基本計画(案)の策定として最終的に報告させていただく予定。

今回の検討会のテーマである避難施設機能について説明する。災害発生時の段階を①発災直後～避難、②避難直後～学校再開の2段階に分けて、各項目に当てはまる考え方を資料に示している。こちらを参考に2つのテーマ、1つ目が利用しやすい避難所施設について、2つ目は避難の際に備えておきたい機能について皆様からご意見を頂きたい。

[ワークショップ]

Aグループ

多くの意見が出たが、5項目に分けて報告する。

まず1つ目に、ハードの側面から、多くの方が避難することになる体育館についての意見が多く出た。避難後の情報がキャッチできるような情報通信設備を体育館に整備してほしいということ、防災倉庫については物品の出し入れなどを考慮して体育館から直結した出し入れしやすい位置にあるとよいということ、それから、体育館を避難所として使っていると臭いの問題などもあると聞いているので、臭いに配慮したような施設設計がなされるとよい、という意見が出た。

2つ目としては、体育館を含めた設備全般に関して、緊急時に発電が可能となるように太陽光発電施設を整備することや、貯水槽を耐震性のあるものにする、また、連絡手段の確保のために災害用PHSなどの設備の充実を図ってほしいという意見が出た。

3つ目としては、マンホールトイレについて、今の鶴川第二小学校では、男性用と女性用が別々の場所にあって、人目につきつつも安心して使えるような配置になっているので、新しい学校でも同じような配置にしてほしいという意見が出た。

4つ目は外構面について、資料の配置案だと入り口から体育館が遠いので、避難者のアクセスや車両の搬入などを考えると、体育館はもう少し入り口に近い位置にあったほうがよいのではないかという意見が出た。それから、敷地の北側にイエローゾーン、レッドゾーンがあるので、マンホールトイレなどの避難施設機能は有事

の際にもしっかり使用ができるように、イエローゾーン、レッドゾーンの近くを避けたほうが良いという意見が出た。

また、全体に関して、バリアフリーとすること、避難者のプライバシーに配慮すること、それから、色々な方が避難してくることを想定して、ソフト面、ハード面ともに充実した設計にしてほしいという意見が出た。

Bグループ

Bグループで出た意見を発表する。

まず、体育館の位置に関して、体育館と防災倉庫、あと駐車場が一体でまとまっているのは、避難時の受付などの運営面を考えるといいのではないかという意見があった。ただ、Aグループでも意見があったが、この案では駐車場や防災倉庫が崖地に近いので安全な場所にしたほうが良いのではないか、また、体育館への入り口も北側からではなく安全な南側にしたほうが良いのではないか、という意見があった。また、体育館の位置にも関係するが、避難所運営時の犯罪に関して、人の目が届くようにするなどの配慮も必要ではないかという意見もあった。

次に、避難所機能として必要な施設について、防災倉庫に関しては体育館と一体として整備したほうが便利ではないか、保健室や特別支援教室のシャワー等も活用できるといいんじゃないか、炊き出しをすることなどに配慮して、家庭科室と近接させるといったような考え方も必要ではないか、という意見があった。

次に、避難所の運営を考えたときに、避難者がどれくらいになるかが読めないところもあるが、児童が学校にいる時間に災害が起きたときを想定して、避難者が使用できるスペース、エリア設定というところを考えて設計する必要があるのではないか、というご意見があった。

最後に、避難所に避難してくる方の中には、障がいをお持ちであるなど特別な配慮を必要とする方もいるので、そういった方々に対してどういった機能が必要なのかということを考えて設計する必要があること、あと、これは先ほどAグループでも出たが、たくさんの方が避難してきて、様々な情報にアクセスしようと思ってもなかなかつながらないということのないように、情報通信関係の整備というものが必要じゃないかというご意見もあった。

5 鶴川東地区の新たな学校名の選定について

新たな学校推進課（資料5-1、5-2説明）

資料5-2は前回の検討会で速報版として提示した「鶴川東地区新たな学校名意見募集」の調査報告書になる。

資料5-1をご覧ください。前回の検討会で説明したとおり、次回、9月に開催する第8回検討会で、本検討会として鶴川東地区の新たな学校名を3案程度選定することを目標としている。前回の検討会では、新たな学校名意見募集の結果を踏まえ、今後どのように3案程度に絞り込んでいくか、その方法や視点などについてワークショップで意見交換を行った。資料の項番1でまとめているが、主なご意見としては、まず、「鶴川（つるかわ）」という言葉を含めたほうがいいんじゃないかと

いったご意見が多かったと感じる。あとは、新たな学校が建設される地形の特色や、自然や緑が豊かである鶴川地区の地域柄が分かる名前がいいんじゃないかといったご意見や、意見募集で寄せられた意見の数については参考にすべきじゃないかといったご意見、あと、新たな通学区域を考慮して特定の地名を含めることは避け、地域的な偏りが無い名前のほうがいいのではないかとといったご意見もいただいた。また、現在の鶴川第二小学校ですとか第三小学校、第四小学校のような、いわゆるナンバーズクールではなく、その学校名になった由来が分かるような名前にしたほうがいいんじゃないか、といったご意見をいただいた。

資料の項番2では、今後、本検討会として新しい学校名を複数案選定していく検討の流れを記載している。本日のワークショップでは、よいと思う学校名とその学校名を選んだ理由を各委員に伺い、今後、学校名を選定していく上で「大切にすべき考え方」について意見交換して皆様と共有したいと考えている。

次回、9月の検討会についてはあくまで現時点での想定になるが、本日のワークショップで共有した「大切にすべき考え方」を基にして、各グループで2案程度を選定し、最終的に検討会全体として鶴川東地区の新たな学校名の案を3案程度の複数案に絞り込んでいきたいと考えている。

最後に資料の項番3をご覧いただきたい。3案程度の複数案を選定した後の広報については、10月以降に資料に記載した方法で広く市民に広報してご意見を伺う。そこでいただいたご意見は、この検討会に逐次報告、共有し、検討会としてのご意見をいただきながら検討を進め、最終的に1月以降に教育委員会で1案を選定したいと考えている。

〔 ワークショップ 〕

Aグループ

まず、今日ご欠席された4人の委員から事前に伺ったご意見は、「鶴川ふたば」、「つるかわ東」、「鶴川坂上」、「鶴川平和台」、「能ヶ谷」、「鶴川能ヶ谷」、「鶴川緑坂」である。なお、やわらかさや読みやすさを考慮してひらがな表記にすることも良いと伺っている。選んだ理由としては、新たな学校が建つ地名や位置、地形を表したほうが良いこと、二つの学校が一緒になるイメージや自然が多い周辺環境を表したいこと、わかりやすさ、やわらかさ、響きの良さを大切にしたいこと、などを挙げられていた。

Aグループで出たご意見は、「鶴川東」、「鶴川坂の上」、「能ヶ谷」、「鶴川平和」である。「鶴川東」の大切にしたい考え方としては、まず、意見募集の結果として数が多かったご意見だということと、学校の場所のイメージが付きやすい、というご意見をいただいた。

「鶴川坂の上」につきましても、やはりがんばり坂をはじめとして、新たな学校ができる位置の地形や、坂という言葉に対する親しみがあることを理由に挙げられている。

「能ヶ谷」については、鶴川という地名はあるにしても、新しい学校の位置としては能ヶ谷という町区域の中にできるので、場所をより具体的に表す言葉を小学校名にしたほうがいいんじゃないかというご意見だった。

最後に「鶴川平和」については、意見募集で児童から意見が出ていた「平和」というものを大切にしていくというのはやっぱり何よりも大事な部分ではないか、というご意見をいただいた。

Bグループ

Bグループでは、鶴川東、あとは丘の上や坂の上というのが多かった。あとは鶴川緑であるとか、若草といったご意見をいただいた。

大事にしたいポイントとしては、「鶴川」が名前の頭にあるということが1つ。もう一つは、地形とか地理的な面で、新たな学校が建つ場所をイメージしやすい坂の上だったり、丘の上だったりというところ。また、位置の分かりやすさということで東というところ。それから最後に、鶴川のどういうところが好きか聞くと、緑が多いところが好き、という意見が多いので、緑や自然を表現するが良いのではないかな。また、そのような名前は同時にやわらかさも出せるので、そういったところも大事にしたいところかな、というご意見をいただいた。

新たな学校推進課 ワークショップでの皆様のご意見やただいまの発表を伺うと、新たな学校名を選定するために大切にすべき考え方としましては、まず「鶴川（つるかわ）」という名前については入れたほうが良いというご意見が多いのかなと感じました。

また、坂の上や丘など、新しい学校が建つ地形を表す言葉や、自然とか緑など周辺環境を表す言葉を含めるのがいいんじゃないかというご意見が複数あったと思います。

あとは、学校が所在している地名を含めたほうが良いというご意見や、鶴川地区の東の地域にあるというところで、意見募集でもご意見が多かった鶴川東という意見についてもかなり多かったかなという印象を受けた。

本日いただいた学校名の案や大切にすべき考え方などのご意見については事務局で分類、整理したうえで、次回の検討会で皆さんと意見交換し、検討会全体として3案程度に絞り込んでいきたいと考えている。

6 次回検討会について

新たな学校推進課 次回、第8回検討会につきましては、9月28日9時30分から、鶴川第二小学校をお借りして開催することを予定している。

会長

閉会のあいさつ